

【資料編】

目 次

1 子供一人一人の「分かり方の特性」を生かした指導法に関する研究	78
2 変化の激しい時代を生き抜く資質・能力の育成 ～「主体的・対話的で深い学び」を通して、子供たちに求められる資質・能力を育む学習指導について～（2年次）	109
3 東京都公立幼稚園5歳児の運動能力に関する調査研究	135

研究主題

子供一人一人の「分かり方の特性」を生かした指導法に関する研究

資料編

○ 実践事例	78
事例1 小学校第2学年・国語	78
事例2 小学校第4学年・国語	80
事例3 中学校第1学年・国語	82
事例4 小学校第6学年・外国語活動	84
事例5 中学校第1学年・外国語	86
事例6 小学校第2学年・算数	88
事例7 小学校第4学年・算数	90
事例8 中学校第2学年・数学	92
事例9 小学校第4学年・理科	94
事例10 中学校第1学年・理科	96
事例11 小学校第4学年・社会	98
事例12 中学校第1学年・社会	100
○ 小学校外国語活動パフォーマンス検査 実施方法	102

事例1 国語「ようすをあらわすことば」

小学校・第2学年

【本単元の概要】

本単元は、写真や音を基に場面を想像し、適切な様子を表す言葉を探し、文章に表すことをねらいとしている。第1・2時では、雨の様子を表す言葉を集め、交流し、表現ごとに分類する。第3・4時では第1・2時で学習した表現方法を生かして、様々な場面の様子を表す言葉を考え、文章を作る。

1 単元の目標

◎様々な様子を表す言葉について知り、言葉への興味を広げることができる。

・語と語のつながりに注意して、文を書くことができる。

2 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	書く能力	言語についての知識・理解・技能
・様子を表す言葉に興味をもち、様々な表現を探そうとしている。	・様子を表す言葉を適切に使って、つながりのある文を書いている。	・擬態語・形容詞・比喩表現の3種類の様子を表す言い方を知り、その使い方を理解している。

3 単元の指導計画＜全4時間＞

時	学習活動
第1時 ＜本時＞	○降り方の違う雨の音を聞いたり、雨の写真を見たりして、様子の違いについて話し合う。 ○降り方の違いに気を付けて雨の様子に合う言葉を考え、発表する。 ○発表を聞き、様子を表すために様々な言い方があることを知る。
第2時	○前時の雨を表す言葉を分類し、擬態語・形容詞・比喩について整理する。 ○擬態語や比喩表現を使っている文と使っていない文を比べ、表現の効果について話し合う。 ○教材文を読み、様子を表す言い方についてまとめる。
第3時	○様子を表す言葉を他にも見付け、それらを使って短文を作ったり、紹介し合ったりする。
第4時	○様子を表す言葉から、何のどのような様子を表しているかを考えて、話し合う。

4 本時の学習（第1時）

(1) 着目した情報を処理する手段を生かした指導の手だてとポイント

【継次処理能力優位を生かした本時の展開】

- ・雨の場面の様子を想像する手だてとして、音声教材と写真を順次提示していき、雨の様子を段階的に想像できるようにする。
- ・雨の様子で3種類の様子を表す言葉を学習し、その学習を生かして様々な場面で様子を表す言葉を使った文章作りを行う。

【同時処理能力優位への配慮】

- ・授業の初めに、本時の見通しをもたせたり、音の情報だけでなく、写真の資料も同時に活用したりする。

(2) 本時における、情報を知覚する手段の優位性を生かした指導の手だて

言語視覚優位		象形視覚優位	
説明の明確化・発問・指示・	・めあてを言葉で板書したり、カードを提示したりする。 ・板書の仕方の基準を設定し、授業内容を構造的に板書する。 ・考えるべき項目について箇条書きで示す。	意欲の継続化の支援	・学年で板書内容・方法の基準を設定し、授業内容を構造的に板書する。(例：めあてを青色、まとめは赤色の枠で囲む。ノートが書きやすいように板書する。) ・多様な雨の様子を想像させるために、何種類かの雨の様子を表し写真を提示する。
言語視覚優位		体感覚優位	
動機付け	・様々な雨の様子を想像させるために、音声教材を活用して、何種類かの雨の音を聞き比べさせる。	学習形態の工夫	・様々な雨の様子を擬態化や動作化をしながら実際に行動することで学習が深まったり、コミュニケーションをとったり、協働して課題解決が図れたりする学習活動を設定する。

(3) ねらい

- ・雨の写真や音を基に、様々な雨の様子を想像し、様子を表す言葉を探することができる。

(4) 本時の展開

継次処理能力優位を生かした指導の構成		同時処理能力優位への配慮	
学習活動		□支援のポイント	
		聴聴覚優位、言言語視覚優位、象象形視覚優位、体体感覚優位	
1 導入 ○「雨が□ふっている。」に合う言葉を考える。 ○雨の様子を表す言葉探しをすることを確認する。		学習の見通しをもたせるため、 言・象 本時のねらいを定位置に板書し枠で囲む。 聴・体 本時のねらいを音読し、学習のイメージをもてるようにする。 言 本時の流れが分かる掲示物を板書に示す。 さまざまな雨のようすをあらわすことばをさがそう。	
2 展開(1) ○強い雨の様子を想像する。 ・写真を基に強い雨の様子を想像する。 ・音を基に強い雨の様子を想像する。 ・音と写真から想像したことを基に強い雨の様子を表す言葉を考え、水色の短冊に書く。 ○弱い雨の様子を表す言葉を考える。 ・写真を基に弱い雨の様子を想像する。 ・音を基に弱い雨の様子を想像する。 ・音と写真から想像したことを基に弱い雨の様子を表す言葉を考え、黄色の短冊に書く。		児童が焦点化して考えられるよう、 言 最初は強い雨について、次に弱い雨について、写真を手掛かりに様子を表す言葉を考えるように促す。 聴 数種類の雨の音を順番に聞かせ、雨の降り方の違いを意識できるようにする。 象 数種類の雨の写真を提示し、雨の降り方の違いを意識できるようにする。 体 それぞれの雨の様子を動作化するように促し、①擬音語②別の物を用いた喩え③体感の観点で表現できるようにする。 言・象 雨の強さに合わせて、強い雨の様子は青色、中位の雨は水色、弱い雨は薄い水色の短冊に書くようにし、どの雨の様子に対しての様子を表す言葉かを視覚的に分かりやすく示す。	
3 展開(2) ○雨の様子を表す言葉を発表し、学級全体で共有し、様子に合わせて分類する。		発表内容を分かりやすくするために、 聴・言 発表する内容を一つずつ掲示し、読み上げる。 言 児童が作成した短冊を結び付けて発表できるようにする。 言・象 様子を表す写真と児童が作成した短冊を並べ、視覚的に分かりやすく板書する。 言 自分が考えた様子を表す言葉を短冊に書き、交流の際に補助資料として示す。	
4 まとめ ○様子を表す言葉はたくさんあり、様子によって少しずつ表現が違いうことをまとめる。 ○次時に様子を表す言葉を、分類・整理することを伝える。		学習したことを思い出せるよう、 聴・言・象 様子を表す言葉と音、写真を関連させながら、板書された言葉を振り返るようにする。 聴・体 板書された言葉を児童と共に読み、本時の学習を振り返るようにする。 聴・体 構造的な板書を見て、本時の学習を振り返り、学習した内容を隣の児童同士で説明し合う。 聴 次時の学習内容を口頭で確認する。 言 単元計画を簡条書きにした掲示物を掲示したものを示し、次時の学習内容を確認する。	

事例2 国語「オリジナル慣用句辞典をつくろう」

小学校・第4学年

【本単元の概要】

本単元では、長い間使われてきた慣用句について知り、慣用句を調べたり、使い方をまとめたりして作成した慣用句辞典を友達と交流し、感想を伝え合う。

1 単元の見 標

- ・長い間我が国で使われてきた慣用句の意味を知ることができる。

◎慣用句を使って文章を作ることができる。

2 単元の評価規 準

国語への関心・意欲・態度	書く能力	言語についての知識・理解・技能
・慣用句に興味をもち、国語辞典を使い、すすんで意味を調べ、集めようとしている。	・慣用句の意味を知り、慣用句を生かした文章を書いている。	・長い間我が国で使われてきた慣用句の意味を知り、使っている。

3 単元の指導計画<全3時間>

時	学習活動
第1時 ＜本時＞	○慣用句について知る。 ○慣用句の意味を調べる。 ○「オリジナル慣用句辞典」を作ることを知る。
第2時	○慣用句を国語辞典や関連図書で集める。 ○「オリジナル慣用句辞典」を作る。
第3時	○「オリジナル慣用句辞典」を友達と見せ合う。

4 本時の学習（第1時）

(1) 着目した情報を処理する手段を生かした指導の手だてとポイント

【同時処理能力優位を生かした本時の展開】

紙芝居や動作化、文章を提示し慣用句が使用される場面全体をつかませながら、慣用句の意味と使い方をイメージさせる。

【継次処理能力優位への配慮】

活動の順序が分かるよう板書し、黒板やノートを見ることで、慣用句の意味や使い方についてスモールステップで理解できるよう配慮する。

(2) 本時における、情報を知覚する手段の優位性を生かした指導の手だて

聴覚優位		象形視覚優位	
支援 や 意欲 の 動機 付け の 継続 化 の	・国語辞典の使い方等、重要な点を繰り返し口頭で伝える。 ・口頭で励ましたり、学習の見通しをもたせたりする。	支援 や 意欲 の 動機 付け の 継続 化 の	・教材には、文字情報だけでなく、絵等の情報を取り入れる。 ・実物投影機とプロジェクターを使って、教科書紙面を黒板に掲示する。
言語視覚優位		体感覚優位	
個別 の 支援	・活動内容を理解する手掛かりとなる文字情報を示す。 ・国語辞典の使い方を実物投影機とプロジェクターを使って、黒板に掲示し、確認できるようにする。	個別 の 支援	・意味や使い方の分からない箇所を明確にさせる。 ・取り組みたい問題や使いたい資料を選択させる。

(3) ねらい

- ・慣用句の意味を知り、使い方を調べる。

(4) 本時の展開

同時処理能力優位を生かした指導の構成		継次処理能力優位への配慮		
学習活動		□支援のポイント 聴聴覚優位、言言語視覚優位、象象形視覚優位、体体感覚優位		
1 導入 ○慣用句の意味を知る。 ○慣用句の意味や使い方を調べることを確認する。	慣用句への関心を高めることができるよう、 象紙芝居を使い、「火花を散らす」様子を示し、意味や使い方をイメージできるようにする。 体紙芝居の絵の中で「火花を散らしている」のはどの部分か考えるようにし、子供たちが一斉に場面絵を指すように促す。			
	慣用句の性質について理解することができるよう、 言・聴まず「頭をひねる」、次に「エンジンがかかる」の意味や使い方を順番に考えさせる。 言「頭をひねる」の意味を、順を追って板書し、使い方を考えられるようにする。			体「頭をひねる」や「エンジンがかかる」の動作化を通して、言葉の意味や使い方をイメージできるようにする。 体「頭をひねる」の意味を、三つの中から選ばせ、使い方を考えられるようにする。
	慣用句の意味を知って、使い方を覚えよう			
2 展開(1) ○慣用句が使われる理由を考える。 ○慣用句の意味をペアで考えたり、国語辞典で確認したりする。	慣用句を使う場面を理解するため、 体黒板に提示された「心がおどる」、「借りてきたねこ」、「虫の知らせ」、「うり二つ」、「実を結ぶ」、「メスを入れる」の六つの慣用句の中から、意味や使い方を説明したいものを一つ選び、ペアで考える。 言国語辞典の使い方を実物投影機とプロジェクターを使って、黒板に掲示し、確認できるようにする。 言五十音表(平仮名)の表を提示する。			
3 展開(2) ○国語辞典を使って教科書の問題を解く。 ○当てはまる慣用句と、その意味を発表し、全体で共有する。	慣用句が使われる場面や使い方について理解が深まるよう、 言・象実物投影機とプロジェクターを使って、教科書紙面を黒板に提示する。 聴教科書の問題を読み上げ、確認できるようにする。 ・教科書に例として挙げられた、「竹をわたったよう」、「手に取るよう」、「水を打ったよう」、「きつねにつままれたよう」は文字通りの意味にとるとどうなるか確認する。 ・辞書に書かれた慣用句の意味と慣用句が表している様子との結び付きを中心に発表するように促す。 聴体に関係のある慣用句はまとめて示されていることを伝える。			
4 まとめ ○本時の学習を振る。	次の授業へ意欲がもてるよう、 言・象学んだ内容について、振り返りカードを用いて確認できるようにする。 言文章で自分の考えや他者の考えを伝え合う活動を設定する。			

事例3 国語「読書紹介をしよう～指示する語句と接続する語句を使いこなして～」

中学校・第1学年

【本単元の概要】

「指示する語句」と「接続する語句」について理解した後、学習を生かして他者に読みやすく分かりやすい読書紹介を書く。「こそあど」言葉の分類や使われ方の文脈上の分析、「接続する語句」では、前後の段落や文、部分の関係についてグループで話し合い、理解を深め、自分の文章に生かす。

1 単元の目標

- ・指示する語句・接続する語句を効果的に使用して、読みやすく分かりやすい紹介文を書く。

2 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	書く能力	言語についての知識・理解・技能
・指示する語句と接続する語句に着目して読んだり、使ったりすることで文章をより適切に理解したり、書いたりしている。	・指示する語句・接続する語句を効果的に使用して、読みやすく分かりやすい文章にしている。	・指示する語句に現場指示と文脈指示があることを理解している。 ・接続する語句により、内容がどのようなつながっているかを理解している。

3 単元について

(1) 指導計画＜全4時間＞

時	学習活動
第1時	○「私の選んだ一冊」の紹介文を書く。
第2時	○指示する語句・接続する語句の意味を理解する。 ○「こそあど」言葉を分類する。 ○文の文章の中で使われる場合の例文を作り、グループで検討する。
第3時 ＜本時＞	○接続する語句を使った様々な短文を作る。 ○作成した短文を基に、グループで接続語の分類を考える。
第4時	○指示する語句・接続する語句を効果的に使用して本の紹介文を完成させる。 ○グループで紹介し合い交流する。

(2) 着目した情報を処理する手段を生かした指導の手だてとポイント

【同時処理能力優位を生かした単元計画】

単元の初めに、単元のまとめの活動として紹介文をグループで紹介し合い交流することを伝え、見通しをもたせる。

【継次処理能力優位への配慮】

- ・問題の把握→分類→体系の理解→演習の方法を繰り返す。
- ・短い文から文章へ、一問一答から自分の言葉で説明へと演習問題の難易度が上がるように設定する。

4 本時の学習（第3時）

(1) 本時における、情報を知覚する手段の優位性を生かした指導の手だて

聴覚優位		象形視覚優位	
説明の明確化・ 発問・指示・ 質問・回答	・一つの口頭による指示等で一つの具体的な学習活動を示す。 ・語句の種類などの新出語句は繰り返す。 ・説明は具体的な言葉で簡潔に話す。	意欲の継続化の支援	・グループの話し合いの結果の発表や説明には、書画カメラやデジタル教科書、ICT機器などを使用する。 ・学習達成度が感じられるよう、ワークシートに自己評価をグラフ等で記入し意欲を持続させる。
	言語視覚優位		体感覚優位
まとめ・振り返り	・ワークシートを構造化し、流れに沿って記入すると学習内容が整理できるようにする。 ・学習のまとめを文章で書くことで振り返りができるようにする。 ・本時の学習内容に関する教科書のページを読ませ、文章で学習内容を振り返ることができるようにする。	学習形態の工夫	・一斉指導や小グループなど、グループ編成に変化をもたせて話し合い活動を行う。 ・座席を全員前向きにしたり、四角の形にしたりするなど、話し合う内容と相手に応じた机の配置にする。

(2) ねらい

- ・接続する語句の働きと接続語の分類を理解する。

(3) 本時の展開

同時処理能力優位を生かした指導の構成		継次処理能力優位への配慮	
学習活動	□支援のポイント聴聴覚優位、言言語視覚優位、象象形視覚優位、体体感覚優位		
1 導入 ○発表で、前時を振り返る。	前時について、全員が振り返ることができるようにするために、 体 前時のまとめを隣の席の生徒に自分で説明し、確認できるようにする。 既習事項の確認ができるよう、 聴 生徒の発表を聞いた後、重要な語句については繰り返し口頭で伝える。 言 黒板で前時のワークシートを示し、確認できるようにする。		
2 展開 ○本時の目標と学習の流れを確認する。(課題把握) ○接続する語句の例を挙げ、意味関係による分類をする。	「接続する語句」の働きを考え、自分の文章に生かそう 学習の見通しがもてるよう、 言・象 本時の全体の流れを黒板に明示する。 聴・体 読み上げた課題をワークシートに記入させる。 象 ワークシートに取り組む手順を、黒板に図で示す。 言・象 本時の目標を板書し、枠で囲む。 聴・体 本時の目標を全員で音読する。 言 ワークシートに学習の達成目標を明示しておく。 聴・体 例示した語を読み上げ、意味を考えさせる。		
○個人で接続する語句の入った例文を三枚の付箋に書き、接続する語句の働きを考える。	学習への意欲が高められるよう、 体 自分なりに三枚の付箋が作文できたら挙手させ、新たな付箋を渡す。 聴 配布した三枚の付箋が書けるまで、口頭で励ます。 言 黒板に書かれた例示を参考に、よいことを伝える。		
○グループで話し合い、接続する語句の分類に名前を付けて全体に発表する。	学習内容の理解を深められるよう、 体 少人数（3人）グループで付箋を貼りながら考えた文章を発表し合う。 体 付箋にある参考になった他者の意見をワークシートに記入する。 聴・体 他者の意見を聞くだけでなく、それに対しての自分の考えを述べるように促す。		
○分類を確認し、文法上の種類名を知る。	学習内容を確実に習得できるよう、 言・象 黒板に分類名を明示する。構造化したワークシートを用意し、一単位時間の学習内容が分かるようにする。 聴・体 接続する語の種類を繰り返し言うように促す。 聴 接続する語の種類名を繰り返し口頭で伝える。		
3 まとめ ○教科書の記述を読む。	学習のまとめができるよう、 象・体 黒板の表示で場所を確認しながら重要な部分に下線を引く。 聴 範読を聞き、重要な部分に下線を引く。 言・体 文章による説明を読み、学習を振り返る。		

事例4 外国語活動「Let's go to Nikko!」

小学校・第6学年

【本単元の概要】

本単元では、「Where do you want to go again?」の表現を用いて、日光のおすすめの場所について互いに聞き合ったり、発表したりして交流する。

1 単元の目標

- ・日光のおすすめの場所について5年生へ向けて発表することを通して、自分の思いがはっきり伝わるように、英語で日光のおすすめの場所について話したり、友達の発表を聞いたりする。

2 単元の評価規準

コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	外国語への慣れ親しみ	言語や文化に関する気付き
・自分の思いがはっきり伝わるように工夫して、日光のおすすめの場所について、互いに聞き合ったり、5年生へ向けて発表したり聞いたりしている。	・日光のおすすめの場所について、尋ねたり言ったりしている。	・世界には様々な人たちが、それぞれの生活をしていることに気付いている。

3 単元について

(1) 指導計画（全5時間）

時	学習活動
第1時	○国名の言い方を知り、世界には様々な人たちが様々な生活をしていることに気付く。
第2時 ＜本時＞	○日光の見学地の言い方を知り、日光のおすすめの場所について尋ねたり、言ったりする表現に慣れ親しむ。
第3時	○日光のおすすめの場所について、尋ねたり言ったりする表現に慣れ親しむ。
第4時	○自分の思いがはっきり伝わるように、日光のおすすめの場所について、互いに聞き合ったり話したりしようとする。
第5時	○自分の思いがはっきり伝わるように、日光のおすすめの場所について、5年生へ向けて発表したり友達の発表を積極的に聞いたりしようとする。

(2) 着目した情報を処理する手段を生かした指導の手だてとポイント

【同時処理能力優位を生かした単元計画】
単元の初めに終末（第5時）に行う「日光のおすすめ場所紹介」の活動の子供たちに伝え、そのための準備・練習の時間として第1時～第4時の学習時間を位置付ける。
【継次処理能力優位への配慮】
単元全体が同時処理能力優位を生かした計画であるので、単元の授業の流れが順に分かるよう掲示物を作成し、毎時間確認する。

4 本時の学習（第2時）

(1) 本時における、情報を知覚する手段の優位性を生かした指導の手だて

聴覚優位		象形視覚優位	
確認 既習事項の	・リズムに合わせテンポよく発音させる。 ・紹介に必要な文をチャンツ等で繰り返し、表現に慣れ親しませる。 ・英語での会話や説明では、分かりやすく、簡潔に話す。	説明の 発問・指示 の明確化	・活動の目的、順序をフローチャート図で板書する。 ・ICTを活用して画像や絵を提示する。
言語視覚優位		体感覚優位	
説明の 発問・指示 の明確化	・本時のねらいを板書する。 ・使用表現の文構造を意識させるため、英文を提示する。 ・対話文で使う単語は、枠で囲むなどして強調する。（品詞ごとに色を変える）	意欲の 学習の 継続化の 支援	・手拍子やチャンツを用いてリズムで文の語順を覚えられるようにする。

(2) ねらい

- ・自分の行きたい場所について尋ねたり、おすすめの場所を紹介したりする表現に慣れ親しむ。

(3) 本時の展開

同時処理能力優位を生かした指導の構成		継次処理能力優位への配慮
学習活動	□支援のポイント 聴聴覚優位、言言語視覚優位、象象形視覚優位、体体感覚優位	
1 導入 ○教師が small talk (英語でのコミュニケーションの場面を実演したり、英語で語りかけたりして、実際にコミュニケーションを図る活動)をして、最終活動に見通しをもつ。	学習活動に見通しをもたせるため、 言 本時の学習の流れをカードで掲示する。 象 活動の順序をフローチャートで確認し、ねらいを枠で囲む。 言 本時のねらいを定位置に板書する。	
	聴 単元の最終活動について具体的な言葉で、簡潔に話す。 象 フローチャートを用いて図を示して、説明する。 体 単元末で行う学習活動のやり取りを教師が実際にを行い、モデルを示す。	
	日光を紹介する表現に慣れ親しもう	
2 展開(1) ○チャンツを行い、使用表現を繰り返す言う。 ○使用表現を教師が言った後に繰り返す言う。 ○児童をAグループとBグループに分け、それぞれ役割に分かれて表現を言う。	①Where do you want to go again? ②I want to go to _____ ③Because, ・ I like _____ ・ I can _____ ・ It's _____ ④It's my best place. 上記の文の構造に気付き、使用単語、使用表現に慣れ親しめるよう、 聴・体 チャンツで手拍子をし、リズムを付けて聞かせ、繰り返し言えるようにする。 言 使用表現の品詞やチャンクごとに、フラッシュカードの単語の文字の色を変えて示す。	
3 展開(2) ○日光を紹介する活動で使いそうな単語、英文に慣れ親しむ。	学習への意欲を高められるよう、 象 名所や使いそうな単語の絵カードを準備する。 象 実際に児童が行った場所や日光の名所を写真カードにして示す。	
	聴 もう一度行きたい場所について質問する。Where do you want to go again? 象 日光の「おすすめの場所」について、自分のお気に入りを出させ、使用言語を繰り返す言う。(ICTも活用)	
4 まとめ ○本時の学習を振り返る。 ○自分が紹介したい場所を選ぶ。	次の授業へ意欲をもてるよう、 象・言 本時で学んだ内容についてカードを用いて既習内容を確認する。 言・体 文章で自分の考えや他者の考えを伝え合う活動を設定する。	

事例5 外国語「Our New Friend」(疑問文の語順理解) 中学校・第1学年

【本単元の概要】

本単元では、相手や先生について互いに質問し合いながら交流を深め、疑問詞who、where、whenと人称代名詞(目的格)him、herの文法的理解を深める。

1 単元の目標

- ・疑問詞who、where、whenと人称代名詞(目的格)him、herの意味・用法・語順について理解する。
- ・新しく学んだ表現を用いて、積極的にコミュニケーションを図る。
- ・まとまりのある対話文や英文を聞いたり、読んだりして、その内容を理解する。

2 単元の評価規準

コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての 知識・理解
・新しく学んだ表現を用いて積極的に話し合い活動に取り組み、英語を使って話そうとしている。	・人称代名詞を使って内容的にまとまりのある文章を書くことができる。 ・持ち主について、尋ねたり答えたりすることができる。	・疑問詞で始まる疑問文や人称代名詞を用いて書かれた文の内容を正しく読み取ることができる。	・疑問詞で始まる疑問文の語順・意味・用法を理解している。

3 単元の指導計画<全9時間>

時	学習活動
第一次	第1時 ○人称代名詞(目的格)him、herの導入、理解、練習
	第2時 ○本文の内容理解・音読練習
	第3時 ○Who is～? Where is～?(疑問文と応答)の導入、理解、練習 ○本文の内容理解・音読練習
第二次	第4時 ○本文の内容理解・音読練習
	第5時 ○When do you～? Where do you～?(疑問文と応答)の導入、理解、練習
	第6時 ○本文の内容理解・音読練習
第三次	第7時 ○Let's talk(知識の活用と定着を図る会話活動)
	第8時(本時) ○<Whose 名詞～?>疑問詞で始まる疑問文に関する活動
	第9時 ○単元、文法のまとめ

4 本時の学習(第8時)

(1) 着目した情報を処理する手段を生かした指導の手だてとポイント

【同時処理能力優位を生かした本時の展開】

初めに画像や実物を活用して、実際の場면을提示し、その後、使用表現について推測したり、分析したりする活動を通して、その場面における適切な疑問詞と答え方を理解できるようにする。

【継次処理能力優位への配慮】

生徒がターゲットセンテンスの意味や語順を理解し、場面に応じて疑問文を活用できるように、感覚の特性を活用した方法で語順について順序立てて示す。

(2) 本時における、情報を知覚する手段の優位性を生かした指導の手だて

聴覚優位		象形視覚優位	
確認 既習事項の	・既習の疑問文や基本の答え方等に、リズムを付けたり、チャンツや音楽を活用したりすることで、自然と表現を聞けるようにする。	説明・発問・指示・明確化	・発問内容を絵やカード、画像等を活用することで、学習内容の理解を促す。 ・ICT機器を効果的に活用し、ペアやグループ活動の方法を視覚的に表すことで指示の明確化を図る。
言語視覚優位		体感覚優位	
説明・発問・指示・明確化	・発問や指示、活動等の説明をする際には、口頭説明だけでなく、文字や文章でも示す。 ・学習活動の方法について、文字や口頭で説明する。	工夫・学習形態の	・手拍子やチャンツなどのリズムを使って疑問詞で始まる疑問文の語順を覚えられるようにする。 ・ペアやグループ活動では、実物や絵、ジェスチャーを活用することで、場面に適したやり取りを促す。

(3) ねらい

- ・ 誰の持ち物かについて文で尋ねたり、答えたりすることができる。

(4) 本時の展開

継次処理能力優位を生かした指導の構成		同時処理能力優位への配慮
学習活動	□支援のポイント	
	聴聴覚優位、言言語視覚優位、象象形視覚優位、体体感覚優位	
1 挨拶 2 ウォームアップ ・ ビンゴ、チャンツ、歌	英語のリズムを身に付けられるよう、 聴・体 チャンツで英文を聞かせ、あわせて口ずさめるようにする。 Whose song is this?の質問に自然に答えられるようするため、 聴 生徒にとって身近な歌を聞かせる。	
3 導入 ○ 設定された場面を知り、疑問詞 Whose の意味を推測し、答え方を理解する。	設定した場面における適切な疑問詞と答え方を言えるようするため、 象・体 実物を用いて、本時で学習する内容の場面を実際の使用場面に結び付けられるようにする。 T: This worksheet has no name. What question can we use? T: In sentence, please. T: How do you answer if it is yours? S: Whose. S: Whose worksheet is this? S: It's mine. 言・象 板書及び電子黒板で、本時のねらいを示す。	
4 展開(1) ○ ターゲットセンテンスと既習の疑問文とを比較することで、ターゲットセンテンスの意味を理解し、文構造の違いを理解する。	文構造の違いに気付くことができるようにするため、 言・象 ターゲットセンテンスと既習の疑問文とを比較できるようにそれぞれを意図的に板書する。 言 既習の疑問文と新出の Whose～? の文を短冊に書き表せるようにする。 体 ペアワークとして、疑問文のパターンを分ける作業を設定する。 言・象 生徒が分けた二つのパターンを黒板に示す。 What is～? Who is～? When do you～? Where do you～? Whose pen is this? Whose racket is that? Whose books are these? Whose bags are those? 言・象 生徒に二つのパターンに分けた際の理由や、気が付いたことを尋ね、Whose～? の語順について理解を促す。 言・象 文字の色や絵カードを活用する。 A 「これはあなたの～ですか。」  Is this yours? Yes, it is. / No, it is not. B 「誰の～ですか。」  Whose is this? (=It is) mine.	
5 展開(2) ○ 場面に応じて単語を変化させ、ターゲットセンテンスのパターン・プラクティス（口頭練習）を行う。	ターゲットセンテンスの理解と語順理解を促すため、 言・象 ターゲットセンテンスを含む文章全体を見たり、読んだりしながら練習できるようにする。 聴・言 ターゲットセンテンスの語順について、主語や物を表す単語を変化させ、順序立てて練習できるようにする。	
6 展開(3) ○ 「他の人の持ち物の持ち主を探し、持ち主に返す」活動に、インフォメーションギャップを設定し、学んだ表現を活用する。	ターゲットセンテンスの理解と語順理解を深めるため、 体 実際の場면을提示し、活動のモデルを示す。 言・象 インフォメーションギャップを取り入れた活動の場面を示し、教室内や生徒の持ち物、ICT機器を活用し、その場面に応じたターゲットセンテンスを使用して活動できるようにする。	
7 まとめ ○ 場面に適切な疑問文と答えの文のやり取りを行う。	ターゲットセンテンスについて理解を確認するため、 言・象 ICT機器を用いて本時の学習内容を振り返る。 聴・体 場面を示し、適切なターゲットセンテンスと答え方について、全体指導と、個別の指導でやり取りを再現し、確認できるようにする。	

事例6 算数「1000 より大きい数」

小学校・第2学年

【本単元の概要】

本単元は、大きく三つの内容で構成されている。まず、第一次では、10000 未満の数の数え方と命数法、記数法、4 位数の位取りの仕組みを理解する。第二次では、10000 未満の数の構成、数の相対的な大きさ、数の大小、順序について理解する。第三次では、10000 までの数に拡張し、数の構成を多面的に捉え、数についての見方を豊かにする。

1 単元の目標

- ・10000までの数について、その意味や表し方を理解し、数の概念についての理解を深めるとともに、数を用いる能力を伸ばす。

2 単元の評価規準

算数への 関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての 技能	数量や図形についての 知識・理解
・身の回りにある数に関心をもち、十進位取り記数法のよさに気付いて、日常生活や計算の仕方に活用しようとしている。	・十進位取り記数法の仕組みを考え表現したり、数を相対的な大きさから捉えたりしている。	・4 位数について書いたり読んだりするとともに、数や式の大小、相等関係を、不等号や等号を用いて表している。	・4 位数について、数の読み方や表し方、数の構成や大小、順序、数の相対的な大きさを理解している。

3 単元の指導計画＜全 11 時間＞

時	学習内容
第一次	第 1・2 時 ○10000 未満の数の数え方と命数法、記数法、4 位数の位取りの仕組みを理解する。
	第 3 時 ○空位のある 4 位数の記数法を理解するとともに、4 位数の位取りの仕組みの理解を深める。
第二次	第 4・5 時 ○数カードをならべて数を表すことを通して、10000 未満の数の構成について理解する。
	第 6 時 ＜本時＞ ○100や10を単位とした、数の相対的な見方の理解を深める。
	第 7 時 ○数直線の読み取りを通して、4 位数の大小、順序を理解する。
第三次	第 8・9 時 ○10000 の構成、数の読み方、書き方及び 10000 付近の数を理解する。
	第 10 時 ○10000 までの数の構成を多面的に捉え、数の見方について理解を深める。
	第 11 時 ○学習内容の定着を確認し、理解を確実にする。

4 本時の学習（第 6 時）

（1）着目した情報を処理する手段を生かした指導の手だてとポイント

【同時処理能力優位を生かした単元計画】

具体物（数カード）を操作しながら、文字や数と図とを関連付けて児童の思考を促すことで、100 や 10 を単位とした数の相対的な見方の理解を深める。

【継次処理能力優位への配慮】

フラッシュカードや掲示物等を用いて既習事項を振り返る活動を行う。また、本時の問題を解決する手掛かりとなる既習事項をスモールステップで示す。

（2）本時における、情報を知覚する手段の優位性を生かした指導の手だて

聴覚優位		象形視覚優位	
既習事項の 確認	・既習事項について、導入時にフラッシュカード等を使って復習できるようにする。	説明・質問・ 明確化・指示	・前時までの既習事項やキーワード等を図で掲示し、説明する。 ・問題の場面を図に表して提示する。
言語視覚優位		体感覚優位	
説明・質問・ 明確化	・解決の手掛かりとなる既習内容を板書して示す。 ・児童の代表的な考えを対比しやすいように板書する。	学習形態の工夫	・具体物を操作しながら、考えさせる。 ・ペアで自分の考えを伝え合う。 ・文字や数と図を指しながら説明させたり、両替をする場面のロールプレイングを取り入れたりしながら、思考の流れを説明できるようにする。

(3) ねらい

- ・2300 円を同じ種類のお金に両替することを通して、100 や 10 を単位とした数の相対的な見方の理解を深める。

(4) 本時の展開

同時処理能力優位を生かした指導の構成		継次処理能力優位への配慮
学習活動	□支援のポイント	
	聴聴覚優位、言言語視覚優位、象象形視覚優位、体体感覚優位	
1 課題把握 ○既習事項から本時の課題を把握する。	既習事項を基に、本時の課題を捉えるために、 言・聴・象 フラッシュカードにより、復習できるようにする。 言・聴・象 既習事項やキーワード等を、言葉や図で掲示する。 $100 \text{ が } 18 \text{ こ} \begin{cases} 100 \text{ が } 10 \text{ こ} \Rightarrow 1000 \\ 100 \text{ が } 8 \text{ こ} \Rightarrow 800 \end{cases} \Rightarrow \boxed{}$ 体 場面について、ロールプレイングを通して理解できるようにする。 2300 円を両替すると、何円玉が何まいになるでしょうか。 言・象 問題の場면을言葉と図に表して提示する。	
2 自力解決 ○予想を立て、見通しをもつ。 ○答えだけでなく、図や言葉を用いて自分の考えを書く。	予想を基に、既習事項を活用して自力で解決を図ることができるよう、 体 具体物を操作しながら、考えられるようにする。 象 絵や具体物等で問題場면을示す。	言 解決の手掛かりとなる既習内容をカードで示す。 言・聴 思考の流れを説明し、内容を整理できるようにする。
3 話し合い (1) ペアでの話し合い ○お互いの考えを伝え合う。	自分の考えを確かにし、自分と異なる考え方を知ることができるよう、 体・聴 ペアで互いの考えを伝え合う。その際、自分の考えとの共通点や相違点に気を付けて聞くよう指示する。	
(2) 学級全体での話し合い ○代表的な考えを比べ、気付いたことを発表する。	学級全体の考え方を知り、自分の考えを深めたり広げたりするために、 言 児童の考えを対比ししやすいように板書する。 言・体 ロールプレイングを行って、「1000 円札を 100 円玉に両替してください。」「1000 円札は両替をして 100 円玉が 10 枚になりました。」等、思考の流れを説明できるようにする。	
4 まとめ ○話し合いを基に、本時の課題に対するまとめをする。	学級全体の考え方を基に一般化し、課題についてまとめられるよう、 言・象 学級全体での話し合いを、キーワードを用いて集約・類型化しながら板書する。 体・聴 文字や数、図などを指しながら、関係付けて説明するよう指示し、思考の流れを確認できるようにする。	
5 適用問題 ○問題に答え、解答までの思考の流れを確認する。	本時のまとめを活用して問題を解くことができるよう、 言・聴・体 まとめた言葉を用いて、問題を解くよう指示し、解答までの思考の流れを確認できるようにする。 ①5700 円は 100 円を何まい集めた数ですか ②9000 円は 1000 円を何まい集めた数ですか ③9000 円は 100 円を何まい集めた数ですか ④9000 円は 10 円を何まい集めた数ですか ⑤800+200 は 100 をもとにする何+何ですか ⑥800+300 は 100 をもとにすると何+何ですか	

事例7 算数「小数のしくみを調べよう」

小学校・第4学年

【本単元の概要】

本単元は大きく三つの内容で構成されている。まず第一次では、1/10 未満の小数の表し方について、1/100 の位、1/1000 の位までの小数の書き方や読み方を知り、理解する。第二次では、第一次の学習を生かして、小数の構成や位取りの仕組み、小数の相対的な大きさや数の多様な見方、10 倍や 1/10 した数について学び、小数が整数と同じ仕組みで表されることを理解する。そして、第三次では、第一・二次で学んだことを活用して、1/100 の位、1/1000 の位の小数の加法及び減法の筆算の仕方を理解し、その計算ができるようにする。

1 単元の目標

- ・小数の意味や表し方及びその加法や減法についての理解を深め、用いることができるようにする。

2 単元の評価規準

算数への 関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形への 技能	数量や図形への 知識・理解
・1/10 未満の小数の表し方や小数の加法や減法の計算の仕方について、十進位取り記数法によさに気付き、整数や小数の仕組みと関連付けて考え、生活や学習に用いようとしている。	・整数や小数の仕組みに着目して、1/10 未満の小数の表し方や仕組み、数の相対的な大きさや小数の加法や減法の計算の仕方について捉え、表現している。	・1/100 の位、1/1000 の位を用いて小数を表し、その加法や減法の計算をしている。	・1/10 未満の小数の表し方を知り、整数と同じ仕組みで表されていることを理解し、数の相対的な大きさや小数の加法や減法についての理解を深めている。

3 単元の指導計画＜全 13 時間＞

時	学習活動
第一次	第1時 ○1/10の単位に満たない大きさの表し方を理解し、1/100の位までの小数の書き方、読み方を知る。
	第2時 ○1/1000の位までの小数の書き方、読み方を知り、小数の表し方について理解する。
第二次	第3時 ○1、0.1、0.01、0.001の関係について理解する。 ○小数の構成や、位取りの仕組みについて理解する。
	第4時 ○小数の大小関係について理解する。
	第5時 <本時> ○小数の相対的な大きさについて理解する。
	第6時 ○小数の多様な見方をすることを通して、小数についての豊かな感覚を身に付ける。
	第7時 ○小数を10倍した数や1/10にした数について理解する。
第三次	第8・9時 ○1/100の位、1/1000の位の小数の加法の筆算の仕方を理解し、その計算をする。
	第10・11時 ○1/100の位、1/1000の位の小数の減法の筆算の仕方を理解し、その計算をする。
	第12・13時 ○学習内容を適用して問題を解決する。 ○学習内容の定着を確認し、理解を確実にする。

4 本時の学習（第5時）

(1) 着目した情報を処理する手段を生かした指導の手だてとポイント

【同時処理能力優位を生かした単元計画】

問題を概括的に捉えるために、問題場面を1、0.1、0.01の大きさの図で示し、全員が把握できるようにする。

【継次処理能力優位への配慮】

問題をスモールステップに分け、簡単な問題から解決し、理解を深めていく。また、問題解決に必要な知識をまとめて出すのではなく、個々の問題解決の段階に応じて確認する。

(2) 本時における、情報を知覚する手段の優位性を生かした指導の手だて

聴覚優位		象形視覚優位	
確認 既習事項の	・相対的な数の大きさについて、重要な表し方は繰り返し聞かせる。(○は□を何こ集めた数です)	説明・ 発問・ 指示・ 明確化	・問題を面積図に図式化して提示する。 ・最小単位 0.01 の大きさ（面積）を表すマスを表示する。
言語視覚優位		体感覚優位	
説明・ 発問・ 指示・ 明確化	・フラッシュカードを用いて、位取り記数法を基に数の相対的な大きさについて図と関連付けて考える。	学習の 意欲の 持続化	・面積図を最小単位 0.01 で区切り、数えながら問題を解くよう伝える。 ・タイルを動かして数えながら問題を解くよう伝える。

(3) ねらい

- ・小数の相対的な大きさについて理解する。

(4) 本時の展開

同時処理能力優位を生かした指導の構成		継次処理能力優位への配慮																															
学習活動		□支援のポイント																															
		聴聴覚優位、言言語視覚優位、象象形視覚優位、体体感覚優位																															
1 課題把握 ○図を基に問題場면을把握する。 ○課題解決の見通しをもつ。 ①問題を捉え直す。 ②課題を確認する。 ③小数の仕組みを確認する。		既習事項を基に、本時の課題を捉えるために、 象 問題を面積図に図式化して提示する。 2. 4 5 は、0. 0 1 を何こ集めた数ですか。 聴・言・象 問題の数の構成について、図を用いて説明するよう伝える。 言・象 最小単位 0.01 の大きさ（面積）を表すマス を提示する。 聴・言 課題と解決の大まかな見通しについて簡潔に話し、板書する。 0.01のいくつ分？ 2 0. 4 0. 0 5																															
2 自力解決 ○一つ上の位について、最小単位のいくつ分かを考える。		予想を基に、既習事項を活用して自力で解決を図ることができるよう、 聴・言 問題をスモールステップに分け、順序よく問題を解くよう伝える。(ヒントカード、声かけ等) ①0.05は、0.01を何こ集めた数ですか。 ②0.4は、0.01を何こ集めた数ですか。 ③2は、0.01を何こ集めた数ですか。 聴・体 最小単位 0.01ずつ図を区切ったりタイルを動かしたりして数を数えながら、数の大きさを捉えられるようにする。 (0.01, 0.02, …, 0.08, 0.09, 0.1, 0.11, 0.12, …0.4, 0.41, …0.98, 0.99, 1) 聴・言 最小単位0.01ずつ区切った図の意味と答え方を伝え、問題を捉えられるようにする。(ヒントカード、声かけ等) (例) ヒントカード 0.4は、0.01を□こ集めた数です。 (ヒント) 0.1は、0.01を10こ集めた数です。 ↓ 0.2は、 0.3は、 0.4は、 0.4																															
3 話し合い ○更に一つ上の位について、最小単位のいくつ分かを考える。		自分の考えを確かにするとともに、考えを深めたり広げたりできるよう、 聴 相対的な数の大きさについて、重要な表し方を繰り返すよう指示する。 (「0.1は、0.01を10こ集めた数です。」→「0.2は、…」→「0.3は、…」→「1は、0.01を100こ集めた数です。」→「2は、…」)																															
4 まとめ ○数の相対的な大きさについて、位取り記数法と関連付けてまとめる。		学級全体の考え方を基に一般化し、課題についてまとめられるよう、 聴 相対的な数の大きさについて、重要な表し方を繰り返し聞かせる。 象 面積図と位取り記数法とを関連付けて、数の相対的な大きさを説明できるようにする。 <table><tr><td></td><td>一の位</td><td>小数第一位</td><td>小数第二位</td><td></td></tr><tr><td></td><td>2</td><td>4</td><td>5</td><td>(は、)</td></tr><tr><td>0.01を</td><td>2</td><td>0</td><td>0</td><td>(こ)</td></tr><tr><td>0.01を</td><td></td><td>4</td><td>0</td><td>(こ)</td></tr><tr><td>0.01を</td><td></td><td></td><td>5</td><td>(こ)</td></tr><tr><td>0.01を</td><td>2</td><td>4</td><td>5</td><td>(こ)</td></tr></table>			一の位	小数第一位	小数第二位			2	4	5	(は、)	0.01を	2	0	0	(こ)	0.01を		4	0	(こ)	0.01を			5	(こ)	0.01を	2	4	5	(こ)
	一の位	小数第一位	小数第二位																														
	2	4	5	(は、)																													
0.01を	2	0	0	(こ)																													
0.01を		4	0	(こ)																													
0.01を			5	(こ)																													
0.01を	2	4	5	(こ)																													
5 適用問題 ○数の相対的な大きさについて、位取り記数法を基に解く。		本時のまとめを活用して問題を解くことができるよう、 言 フラッシュカードを用いて、位取り記数法を基に数の相対的な大きさについて、面積図と関連付けて確認できるようにする。																															

事例8 数学「一次関数」

中学校・第2学年

【本単元の概要】

本単元は大きく三つの内容で構成されている。第一次では、一次関数の意味を理解し、身の回りの事象の中から、一次関数とみられるものを見付けることができるようにする。また、一次関数の特徴を理解し、一次関数のグラフがかけたり、与えられた直線から式が求められたりできるようにする。第二次では、一次関数のグラフと二元一次方程式のグラフとの関係や連立方程式の解とグラフとの関係を明らかにする。第三次では、具体的な事象を一次関数とみなし、それを問題解決に利用できるようにする。

1 単元の目標

- ・変化や対応についての見方や考え方を深めるとともに、事象の中から一次関数を見いだし、それを用いることができるようにする。

2 単元の評価規準

数学への 関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	数量や図形など についての知識・理解
・様々な事象を一次関数として捉えたり、表、式、グラフなどで表したりするなど、数学的に考え表現することに関心をもち、意欲的に数学の問題の解決に活用して考えたり判断したりしようとしている。	・一次関数についての基礎的・基本的な知識及び技能を活用しながら、事象を数学的な推論の方法を用いて論理的に考察し表現したり、その過程を振り返って考えを深めたりするなど、数学的な見方や考え方を身に付けている。	・一次関数の関係を、表、式、グラフを用いて的確に表現したり、数学的に処理したり、二元一次方程式が関数関係を表す式と見てグラフに表したりするなどして、問題解決に一次関数を利用している。	・事象の中には一次関数として捉えられるものがあることや一次関数の表、式、グラフの関連などを理解し、知識を身に付けている。

3 単元の指導計画＜全 19 時間＞

時	学習活動
第1・2時	○一次関数の意味を理解する。
第3・4時	○一次関数の値の変化と変化の割合の意味を理解する。
第5・6・7時	○一次関数 $y=ax+b$ のグラフの意味を理解する。 ○比例のグラフと一次関数のグラフとの関係と切片の意味を理解する。 ○傾きの意味と変化の割合との関係を理解する。 ○一次関数のグラフを、傾きと切片を用いてかく。
第8・9・10時＜本時＞	○一次関数のグラフから、傾きと切片を読み取り、式を求める。 ○傾きとグラフ上の1点の座標から式を求める。 ○グラフ上の2点の座標から式を求める。
第11・12時	○方程式 $ax+by=c$ のグラフを理解する。 ○方程式のグラフを、2点を求めてかく。 ○ $y=k$ のグラフ、 $x=h$ のグラフについて理解する。
第13時	○連立方程式の解とそのグラフの交点の座標との関係を理解する。 ○2直線の交点の座標を、連立方程式を用いて求める。
第14・15・16・17時	○事象の中から一次関数を見いだし、一次関数を用いて問題を解決する。 ○水温の変化や動点の位置の変化を一次関数で捉え、式やグラフを使って推測する。
第18・19時	○基本のたしかめ・章末問題を解き、定着を確実にする。

4 本時の学習（第10時）

(1) 着目した情報を処理する手段を生かした指導の手だてとポイント

【同時処理能力優位を生かした本時の指導】

前時までの学習内容を図や言葉で示し、式とグラフとの関係を捉えやすくする。また、グラフを指でなぞらせ、一次関数の傾きや切片を意識させる。

【継次処理能力優位への配慮】

個に応じてスモールステップで既習事項を振り返らせたり、説明させたりする。

(2) 本時における、情報を知覚する手段の優位性を生かした指導の手だて

聴覚優位		象形視覚優位	
確認・既習事項の	・問題を声に出して読み、内容を確認するよう伝える。	説明・発問・指示・明確化	・問題を図で表し、関係を明確にする。 ・問題解決に用いた考えを図で表し、解法への道筋を明確にする。
言語視覚優位		体感覚優位	
説明・発問・指示・明確化	・問題解決の考えの助けとなる既習事項を簡条書きで示す。 ・考えるべき項目について簡条書きで示す。	学習の動機付け や意欲の持続化	・点やグラフをなぞらせたり、たどらせたりして、思考の流れを確認するよう指示する。

(3) ねらい

- ・一次関数のグラフ上の2点の座標から、式を求めることができる。

(4) 本時の展開

同時処理能力優位を生かした指導の構成		継次処理能力優位への配慮
学習活動	□支援のポイント 聴聴覚優位、言言語視覚優位、象象形視覚優位、体体感覚優位	
1 課題把握 ○前時までの学習内容を振り返る。 ○解決の見通しをもつ。 ○課題を確認する。	既習事項を基に、本時の課題を捉えるために、 聴・言 前時までの学習、グラフから一次関数の式を求める課題を言葉で整理し、説明する（傾きと切片が分かるとき、傾きと1点の座標が分かること）。 象 グラフの様子から一次関数の式を求めることができないかを考えるよう指示する。 yはxの一次関数で、そのグラフが2点(1, 2)(5, -6)を通る直線であるとき、この一次関数の式を求めなさい。 聴 問題を声に出して読むことで、内容を確認させる。 象 問題を図で示し、一次関数の式との関係を明確にする。 体 点をたどらせ、x軸方向、y軸方向にどのように進んでいるかを確認するよう指示する。	
2 自力解決 ○グラフを通る2点をもとに傾きaを求めて、切片bを求める方法 ○a、bについての連立方程式を作って求める方法	象 分かっている2点から傾きを意識できるように図示する。 体 グラフをなぞり、傾きが正であるか負であるかを確認するよう指示する。	聴 生徒の考えに応じて、スモールステップで説明をする。 言 問題解決の考えの助けとなる既習事項を箇条書きで示す。 言 考えるべき項目について箇条書きで示す。
3 話し合い ○ペアで話し合い、一次関数の式の求め方を確認する。	自分の考えを確かにするとともに、考えを深めたり広げたりできるよう、 聴・言 課題の解決の仕方について、既習事項と関連付けながら箇条書きで記し、読み上げる。 <既習事項の確認> ・一次関数の式 $y = ax + b$ の a、b が何かを問う。 ・傾き a の求め方 ・傾き a を求めた後の b の求め方 ・連立方程式の解き方 体・聴 ペアや小グループで互いの考えを伝え合い、考えを比べながら考察するよう伝える。 言 二つの考え方の類似点、相違点を話し合う。	
4 まとめ ○2点分かっている場合のグラフの式の求め方を自分でまとめる。	学級全体の考え方を基に一般化し、課題についてまとめられるよう、 象 問題解決に用いた考えを図で表し、解法への道筋を明確にする。 体 ペアや小グループで互いのまとめを伝え合い、考察するよう指示する。	
5 適用問題 ○教科書の練習問題に取り組む。	本時のまとめを活用して問題を解くことができるよう、 聴 学習を板書で振り返り、もう一度重要な部分を読み直して確認できるようにする。	

事例9 理科「月と星」

小学校・第4学年

【本単元の概要】

本単元では、月や星の位置を地上の目標物と比較したり方位で表したりしながら時間の経過とともに調べ、月や星の美しさを感じたり月や星の動きや特徴を捉えたりする。

1 単元の目標

- ・天体について興味・関心をもって追究する活動を通して、月や星の動きと時間の経過を関係付ける能力を育てるとともに、月や星の特徴や動きについての見方や考え方を養う。

2 単元の評価規準

自然事象への 関心・意欲・態度	科学的な思考・表現	観察・実験の技能	自然事象についての 知識・理解
・月や星の位置の変化、星の明るさや色に興味・関心を持ち、進んで月や星の特徴や動きを調べようとしている。 ・月や夜空に輝く星から自然の美しさを感じ、観察しようとしている。	・月や星の位置の変化と時間や、星の明るさや色を関係付けて、それらについて予想や仮説を持ち、表現している。 ・月や星の位置の変化と時間とを関係付けて考察し、自分の考えを表現している。	・必要な器具を適切に操作し、月や星を観察している。 ・地上の目印や方位などを使って月や星の位置を調べ、その過程や結果を記録している。	・月は日によって形が変わって見え、一日の中でも時刻によって位置が変わることを理解している。 ・空には明るさや色の違う星があることを理解している。 ・星の集まりは、一日のうちでも時刻によって、並び方は変わらないが、位置が変わることを理解している。

3 単元について

(1) 指導計画（全4時間）

時	学習活動
第1時 <本時>	○月や写真資料などを基に、月の動き方について話し合い、月の観察方法や記録の仕方を知る。
第2時	○半月の動きや数日後に見られる満月の動きを観察して記録する。（観察は課外）
第3時	○半月や満月の動き方を基に、月は東から西へ絶えず動いていることや、月は日によって形が違って見えることをまとめる。
第4時	○この頃見られる星について話し合い、夜間に星の位置と並び方を観察する。（観察は課外）
第5時	○星は時間がたつと、位置は変わるが並び方は変わらないことをまとめる。月や星の動きについて、学習したことをまとめる。

(2) 着目した情報を処理する手段の優位性を生かした指導の手だてとポイント

【継次処理能力優位を生かした単元計画】

問題解決の過程に沿って、単元指導計画を作成した。また、観察の方法に関して、一つ一つ順序を押さえながら進めるように計画を作成する。

【同時処理能力優位への配慮】

単元全体が継次処理能力優位を生かした計画であるので、1単位時間の授業や単元の授業の流れが全体的に分かるよう掲示物を作成し、毎時間確認する。

4 本時の学習（第1時）

(1) 本時における、情報を知覚する手段を生かした指導の手だて

聴覚優位		象形視覚優位	
既習事項の 確認	・太陽の動き方について、順を追って口頭で確認する。 ・観察カードに記録すべきことについて、カードに書かれたキーワードを声に出して読みながら確認する。	説明・ 発問・ 指示・ 明確化	・動きや時刻等、矢印やアナログ時計の図で表す。 ・あらかじめ景色及び月の図を描いた観察カードを持たせ、観察位置を決めさせる。
言語視覚優位		体感覚優位	
説明・ 発問・ 指示・ 明確化	・太陽の動き等を文章で示す。 ・活動内容について、板書したりカードを貼ったりする。 ・説明に対しては、文章で書いたものを提示し、音読させる。	学習 形態 の 工夫	・月が基準となる水平線から、自分自身のにぎりこぶしでいくつ分になるか数えて月の高さを測定させる。

(2) ねらい

- ・月の動きに興味をもち、昼間に見える月の観察を基に、月の動き方を予想して、自分の考えを表現することができる。

(3) 本時の展開

継次処理能力優位を生かした指導の構成		同時処理能力優位への配慮
学習活動	□支援のポイント 聴聴覚優位、言言語視覚優位、象象形視覚優位、体体感覚優位	
1 導入 ○学習活動に見通しをもつ。	学習に見通しをもたせるために、 聴 本時の流れを具体的な言葉で、簡潔に話す。 言 本時の流れをカードで掲示する。 象 本時の流れをフローチャートで確認する。	聴 本時の最終活動について具体的な言葉で簡潔に話す。 象 ポスター（又はICT）を用いながら説明する。
	○月を見た経験やそのときに感じたことを話し合い、月について調べたいことを考える。	聴 話し合いのキーワードを口頭で繰り返し、確認する。 象 発言のキーワードの板書を工夫し、関係のある発言を近くに書いたり、線でつないだりする。
2 展開(1) ○昼間に南東の空に見える半月を探して、観察する。 ○校庭で見た月は動いていたか、観察したことなどを基に話し合う。	正しく観察できるように、 聴 「この木とこの木の間に見える所に立つ」など、場所を声に出して伝え、観察位置を決めさせる。 言 「初めはこの木とこの木の間に見える所に立つ」など、観察する場所をカードに文で書き、観察位置を決めさせる。 体 塀や鉄棒など、固定されている物に背中をつけさせるなどして、観察位置を決めさせる。	象 見える景色及び月を描いた観察カードを持たせ、観察位置を決めさせる。
3 展開(2) ○時間をおいて、もう一度同じ場所で観察し、月の動きについて考える。	問題を把握し、月の動き方を観察できるように、 言・象 問題を板書し枠で囲む。 月はどのように動いているのだろうか。 体 問題を観察カードに書かせる。	
4 まとめ ○月の動きを観察する方法を確認する。	月を観察する方法や仕方を確認するために、 言・象 観察カードのポイントを赤で囲ませて、確認する。 体 観察カード（練習用）を拡大したものを指し示したり、言わせたりする。 こぶしを使って高さを計る方法を身に付けられるように、 聴 口頭での説明を十分に聞かせ、反復させる。 象 月を観察する方法や仕方を図に書き加えながら確認する。 体 実際に月の高さを、こぶしを用いて「基準(0)」から数を唱えながら測定させてみる。	

事例 10 理科「身近な物理現象」 中学校・第1学年

【本単元の概要】

本単元では、光や音、力について学ぶ。音については実験を通して、音は物体の振動によって生じ振動が空気中などを伝わることを、音の大小や高低は、発音体の振動の振幅と振動数に関係することを理解する。

1 単元の目標

- ・身近な事物・現象についての観察、実験を通して、光や音の規則性、力の性質について理解させるとともに、これらの事物・現象を日常生活や社会と関連付けて科学的にみる見方や考え方を養う。

2 単元の評価規準

自然事象への 関心・意欲・態度	科学的な思考・表現	観察・実験の技能	自然事象についての 知識・理解
・光と音、力と圧力に関する事物・現象にすすんで関わり、それらを科学的に探究するとともに、事象を日常生活と関連付けようとしている。	・光と音、力と圧力に関する事物・現象の中に問題を見だし、目的意識をもって観察、実験などを行い、事象や結果を分析して解釈し、自らの考えを表現している。	・光と音、力と圧力に関する事物・現象についての観察、実験の基本操作を習得するとともに、観察、実験の計画的な実施、結果の記録や整理など、事象を科学的に探究する技能の基礎を身に付けている。	・観察や実験などを通して、光と音、力と圧力に関する事物・現象についての基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。

3 単元について

(1) 指導計画＜全 24 時間＞

時	学習活動
第1時	○実験を通して、光は直進することを理解する。
第2～5時	○実験を通して、光の反射の法則、光の屈折によって起こる現象を理解する。
第6～8時	○実験を通して、凸レンズのはたらきについて理解する。
第9時	○実験を通して、音は音源が振動すること、大小や高低と振動との関係について理解する。
第10時 ＜本時＞	○実験を通して、音が伝わるということは、音源の振動が伝わることでありと理解する。
第12～16時	○実験を通して、音の速さ、音の大小や高低について、音の波形との関係を理解する。
第12～16時	○実験を通して、力の働き、いろいろな力、力の表し方を理解する。
第17～19時	○実験を通して、力の大きさとばねの伸びの関係を理解する。重さと重量の違いを理解する。
第20～24時	○実験を通して、圧力、水圧と浮力、空気の圧力を理解する。

(2) 着目した情報を処理する手段を生かした指導の手だてとポイント

【継次処理能力優位を生かした単元計画】

同じ現象を、生徒が疑問をもつ順序に従って、手法を変えて提示することで、現象の一般化を図るとともに、知識の定着を促す。

【同時処理能力優位への配慮】

単元全体が継次処理能力優位を生かした計画であるので、毎時間のワークシートを作成し、授業の全体像が分かるようにする。

4 本時の学習（第10時）

(1) 本時における、情報を知覚する手段の優位性を生かした指導の手だて

聴覚優位		象形視覚優位	
確認 既習事項の	・実験における用語等を正確に言葉で表現する。	説明 発問・指示 の明確化	・学習の流れや実験の手順について、実物を提示しながら説明する。 ・考えの助けとなる現象を図で提示する。
言語視覚優位		体感覚優位	
説明 発問・指示 の明確化	・主題を板書するとともに、大事なところを枠で囲む、あるいは下線を引くなどして、明確にする。	学習 意欲の 持続化	・音源に触れさせる、実験中に道具を動かすなど、具体物に触れながら学ぶ方法を取り入れる。 ・同じ現象を異なる方法で提示することで、着目点を明確化するとともに、知識の定着を促す。

(2) ねらい

- ・音が伝わるということは、音源の振動が伝わることであるということを理解する。

(3) 本時の展開

継次処理能力優位を生かした指導の構成		同時処理能力優位への配慮
学習活動	□支援のポイント	聴聴覚優位、言言語視覚優位、象象形視覚優位、体体感覚優位
1 導入 ○音が出ているものは振動していることを確認し、本時の課題を理解する。	音源と発する音の特徴を振り返るために、 聴・体 音叉を叩いて音を聞かせる。音が出ている音叉に触らせる。 言 音量や高低について、特徴を文で書いて確認する。 象 音量や高低について、弦が振動している模式図をかくて確認する。	言 「音はなぜ聞こえるか」と板書し、本時の最終的な学習のめあてを確認する。
2 課題の解決（実験1） ○発問に答えることと、糸電話の演示実験を通して、課題を把握し、解決への見通しをもつ。	実験から本時の課題を把握できるように、 聴・体 生徒に糸電話で話をさせ、話をしているときに、糸を押さえると、聞こえる音が小さくなる理由を考えさせる。 聴・言 なぜ、私の声はあなたの耳に届くのかと発問し、発問を板書する。	体 糸電話の糸と、空気が同じ働きをしていることに、実験を通して気付けるようにする。
3 課題の解決（実験2、3） ○大太鼓の実験を通して、音と空気の振動の関係を考える。 ○真空鈴の実験を通して、音が聞こえるということは、空気やその他の物質の振動が伝わることを理解する。	空気の振動を捉えられるように、 体 生徒を大きな太鼓の側に立たせ、太鼓を叩く。 聴 音源の周りの空気をなくしたら音の伝わり方はどうなるかと、発問する。 結果を分析し、解釈できるように、 言・体 実験の結果を予想させ、ワークシートに自分の考えを記入させた後、班の中で意見交換をし、発表を行うようにする。 聴・体 発表を聞いた後、自分自身が正しいと思う考えを再度、ワークシートに記入できるようにする。 聴・体 ブザーを入れた真空鈴の空気を抜き、音の変化を調べる。続いて、ブザーを入れた容器のふたを開けて空気を入れ、音の変化を調べさせる。	
4 課題の解決（実験4、5） ○複数の実験などを通して、音を伝えるものは空気だけではないことを理解するとともに、生活の中の現象と結び付ける。	音を伝える空気以外のものを捉えられるように、 聴・体 真空鈴の中の気泡入り緩衝材を取り出した後、容器の空気を抜き、音の変化を調べさせる。 聴・体 手持ち音叉を鳴らし、その端を頭骨に付けて音の大きさがどうなるか調べさせる。 聴・象 宇宙飛行士の写真を見せ、宇宙で、宇宙服を着た人同士が話をするためにはどうしたらよいかと、発問する。	
5 まとめ ○学習内容への理解を適応問題に取り組み、深める。 ○「音がなぜ聞こえるか」についてまとめる。	並べて置かれた二つの音叉の片方の音叉を叩いて鳴らし、しばらくして音叉に触れて音を止めると、もう一方の音叉も鳴る。なぜ、叩いていない音叉が鳴るのだろうか。 適用問題を通して学習内容への理解を深められるように、 聴 周囲と話し合い、問題について考えさせる。 体 二つの音叉に触れさせ、問題について考えさせる。 学習を振り返り、課題解決への道筋を理解できるよう、 言 本時の板書の文を読み返させ、問題について考えさせる。 象 本時の板書の図の部分を見返させ、問題について考えさせる。	

事例 11 社会「都道府県名と位置をしっかりと覚えよう」 小学校・第4学年

【本単元の概要】

本単元では、自分たちの住む東京都や区市町村の地理的位置、47 都道府県の地形や特産品などに関心をもつとともに、資料を活用したり白地図にまとめたりして調べ、47 都道府県クイズを作ることを通して、47 都道府県の名称と位置を理解する。

1 単元の目標

- ・47 都道府県の名称と位置や、自分たちの住んでいる区市町村や東京都の地理的位置を意欲的に調べ、理解することによって、東京都の特色を捉える基盤となる知識を身に付ける。

2 単元の評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	観察・資料活用 の技能	社会的事象について の知識・理解
・自分たちの住んでいる区市町村や東京都、47 都道府県に関心を持ち、その特色を資料や地図帳などを活用して意欲的に調べ、東京都や47 都道府県の地理的な特色を考えようとしている。	・自分たちの住んでいる区市町村や東京都、周りの県について調べる活動から、学習問題を見いだし、予想を立てたり、調べたり、話し合ったりする活動を通して、東京都や47 都道府県には様々な特色があることを考え、適切に表現している。	・資料や地図帳などから、自分たちの住んでいる区市町村や東京都、47 都道府県の特色についての必要な情報を集め、ノートや白地図などにまとめている。	・日本が47 都道府県で構成されていることや、自分たちの住んでいる区市町村や東京都、47 都道府県の名称と位置を確実に理解している。

3 単元の指導計画＜全5時間＞

時	学習活動
第1時	○東京都の地図を基に、自分たちの住む区市町村の位置を調べ、その言い表し方を考える。 ○東京都について知っていることを話し合う。
第2時	○日本地図を基に、東京都の位置を調べ、その言い表し方を考える。 ○東京都の周りの県について位置や様子を調べ、学習問題を作る。 (学習問題) 日本の都道府県には、どのような特色があるのだろう。
第3時	○七つの地方区分と47 都道府県の名称と位置を調べ、白地図にまとめる。
第4時	○自分の興味や関心のある食べ物(農産物)の産地の都道府県について調べ、白地図にまとめる。
第5時 ＜本時＞	○47 都道府県の位置や地形、特産品などを基に都道府県クイズを作り、実際にクイズを行う。 ○学習問題を解決する。

4 本時の学習(第5時)

(1) 着目した情報を処理する手段を生かした指導の手だてとポイント

【継次処理能力優位を生かした一単位時間の流れ】

- ・地図帳で47 都道府県の名称と位置を北から順番に確認しながら白地図に作業させるようにする。
- ・都道府県クイズの作り方を順序立てて説明してから、地図帳を使ってクイズを考えさせるようにする。

【同時処理能力優位への配慮】

- ・先に県取りゲームの結果の白地図を見せてから、ゲームの仕方を説明するようにする。
- ・先に都道府県クイズの問題例を見せてから、作り方を説明するようにする。

(2) 本時における、情報を知覚する手段の優位性を生かした指導の手だて

聴覚優位		象形視覚優位	
確認 既習事項の	・地図などで示されたものを音声言語で表す。 ・口頭で既習事項を繰り返し質問する。 ・学習における用語等を正確に表現する。	説明 発問・指示 の明確化	・47 都道府県の地図を拡大したものを用意し児童の活動を説明する時に使用する。 ・都道府県クイズの問題例を地図のイラスト、ICT等を活用して用意する。
言語視覚優位		体感覚優位	
説明 発問・指示 の明確化	・めあて、学習問題、主発問等を言語で板書又はカード等で明示したり、具体的なキーワードを文字情報として示したりする。 ・作業の手順を箇条書きにして拡大したものを掲示する。	や 意欲 の 維持 化	・47 都道府県の名称と位置を調べる活動を3人組でじゃんけんをしながら県の形や名前を書いて行う「県取りゲーム」で行う。

(3) ねらい

- ・白地図ゲームを通して 47 都道府県の名称と位置を調べ、47 都道府県に興味・関心をもつ。
- ・都道府県クイズを作り、実際にクイズを行う中で、都道府県についての理解を深める。

(4) 本時の展開

継次処理能力優位を生かした指導の構成		同時処理能力優位への配慮
学習活動	□ 支援のポイント 聴聴覚優位、言言語視覚優位、象象形視覚優位、体体感覚優位	
1 導入 ○既習事項を振り返り、本時のめあてを知る。	本時のめあてを理解できるようにするために、 言 本時のめあてを提示する。 47 都道府県の名前と位置を調べ、クイズを作ろう 東京都などの名称について、既習事項を想起できるようにするために、 聴 県名を声に出して言いながら、既習事項を思い出せるようにする。	
2 展開 (1) ○47都道府県の名称と位置を 3 人組で「県取りゲーム」をしながら、確認する。	「県取りゲーム」を通して都道府県の位置を理解するために、 言 以下のルールを掲示する。 (ルール) ①お互いに好きな県を一つ決め、それぞれ違う色で県を囲んで色を塗る。 ②じゃんけんをし、勝ち方に応じて、選んだ県に隣り合っている県を選んだ色で囲んで塗っていく。(1 位→3 県、2 位→2 県、3 位→1 県) ※隣り合っている県が塗れない時は隣り合っていない県を続けて塗れる。 ③47 都道府県終わった時点で多く塗れた人の勝ち。 象 自分が囲みたい県の名前が分からないときは、地図帳で確認するように指示する。 体 1 グループに 1 枚白地図を配布し、繰り返し行えるようにする。	
3 展開 (2) ○47 都道府県の中から、一つの県などを解答にした都道府県クイズを考え、ワークシートに書く。	都道府県クイズの問題例の作成の方法を理解できるようにするために、 聴・象 書画カメラで映し出ししながら、順序立てて説明する。 言 やり方を書いた文を掲示する。 言 ワークシートに考えた問題を書くよう指示する。	象 地図帳やノートを見ながら、都道府県クイズを考えるよう指示する。
○都道府県クイズを行う。 ○班ごとに一番よい問題を一つ決め、学級全体でクイズを行う。	都道府県クイズを通して都道府県の特徴を理解できるようにするために、 言・象 絵図と問題を見せながらクイズを行うよう指示する。 象 分からないときは、地図帳や白地図を見て考えるとよいことを伝える。 聴 学級全体で班ごとに 1 問ずつ都道府県クイズを出し、学級全体でクイズを行う。	象 問題を出すときは、書画カメラで絵図を映し出しながら、学級全体で数問の都道府県クイズを行えるようにする。
4 まとめ ○都道府県について、分かったことを発表する。	本時で学んだことを発表させながら、単元の学習問題を解決するために、 象 発表された県を地図帳で確認するよう指示する。 聴・言 日本は47都道府県によって構成されており、形や大きさが違い、都道府県ごとに特産品などがあることを確認する。	

事例 12 社会（地理的分野）「南アメリカ州」

中学校・第1学年

【本単元の概要】

本単元では、南アメリカ州の国々の位置・名称、自然環境、産業、歴史と文化などの基礎的・基本的な知識を習得する学習を行う。単元のまとめとして「アマゾンで起こっている環境問題とその対策」という課題を設定し、様々な資料を活用して課題を追究しながら、南アメリカ州の地域的特色を理解する。

1 単元の見どころ

- ・南アメリカ州に暮らす人々の生活の様子について学び、それらを活用しながら「アマゾンで起こっている環境問題とその対策」という主題について考察し、南アメリカ州の地域的特色を理解する。

2 単元の評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	資料活用 の技能	社会的事象について 知識・理解
・南アメリカ州の自然環境、生活、文化、産業の様子などについて把握し、南アメリカ州の地域的特色に対する関心を高め、意欲的に追究している。	・南アメリカ州の自然環境、生活、文化、産業などの地域的特色について、アマゾンの開発に関する問題を基に多面的・多角的に考察し、文章で表現している。	・南アメリカ州の地域的特色について、歴史的背景を踏まえながら、農業や鉱工業に関する資料から、有用な情報を適切に選択し、読み取ったり、図表にまとめたりしている。	・南アメリカ州に関する基礎的・基本的な知識を身に付けるとともに、「南アメリカ州で起こっている環境問題とその対策」という学習テーマを基に、地域的特色を理解している。

3 単元について（指導計画）

（1）指導計画＜全4時間＞

時	学習活動
第1時 ＜本時＞	○南アメリカ州の地形や気候の分布について理解し、南アメリカ州の地域的特色を考察する。
第2時	○南アメリカ州におけるかつての植民地支配が、現在の生活や文化にどのような影響を及ぼしているか考察する。
第3時	○統計資料を活用し、南アメリカ州の農業や鉱工業の特色や輸出品の変化について考察し、文章で説明する。
第4時	○資料から、熱帯林の減少が自然環境や人々の生活に与える影響について考え、それにとともなって引き起こされる問題への対策について資料を活用して考察する。

（2）着目した情報を処理する手段を生かした指導の手だてとポイント

【継次処理能力優位を生かした単元計画】

南アメリカ州の自然環境について、基礎的・基本的な用語を理解させた後、課題について考察する学習を行うようにする。

【同時処理能力優位への配慮】

考える手だてとなる用語やキーワード、また調べる手掛かりとなる資料を提示した後、話し合い活動や調べ学習を行うようにする。

4 本時の学習（第1時）

（1）本時における、情報を知覚する手段の優位性を生かした指導の手だて

聴覚優位		象形視覚優位	
振り返り・まとめ	・解答を確認したり、考えを発表したりする際には、口頭で確認・発表させる。	説明・質問・指示の明確化	・ICT機器を活用し、学習内容に関する写真や雨温図等の資料を提示し、説明・確認する。 ・様々な資料で調べたことを、白地図に視覚的にまとめさせる。
言語視覚優位		体感覚優位	
個別の支援	・事前に語群を提示し、解答が困難な際には語群から選択させる。 ・発表をする際には、事前に考えたことや調べたことを簡潔に箇条書きでメモをさせる。	継続化の支援	・本時のねらいや学習内容を、ワークシートに記入させる。 ・国の位置や形をなぞりながら確認させたり、山脈や河川などを色分けさせたりする。

(2) ねらい

- ・南アメリカ州の自然環境の特色について理解することができる。
- ・南アメリカ州の自然環境の特色についての知識から、南アメリカ州の人々の生活の様子を考えることができる。

(3) 本時の展開

継次処理能力優位を生かした指導の構成		同時処理能力優位への配慮
学習活動	□支援のポイント 聴聴覚優位、言言語視覚優位、象象形視覚優位、体体感覚優位	
1 導入 ○南アメリカ州の国々の位置や名称について確認する。	南アメリカ州の国々の位置・名称を把握するために、 言 国名について、語群から選択できるようにする。 聴・体 解答を確認する際には、全員で国名を声に出すよう、指示する。	
○本時のめあてを知る。	本時のめあてや学習の手順を理解するために、 体 本時のめあてをワークシートに記入するよう指示する。 南アメリカ州の自然環境の特色を調べ、人々がどのような生活をしているか考えよう。	
2 展開(1) ○南アメリカ州の名称や位置、自然環境の特色をワークシートの白地図に記入する。	南アメリカ州の自然環境を理解できるように、 聴・体 3～4人班で話し合いながら、山脈や河川などを記入するよう、ワークシートにある白地図に記入するよう指示する。 象・体 ワークシートにある白地図に、地図や主題図、雨温図などの資料を見ながら、調べたことをまとめるよう指示する。 聴・体 解答を確認する際に、全員で名称を復唱するよう指示する。 象 ICT機器を用いてアマゾン川やアンデス山脈などの写真資料を見せて確認するよう指導する。 言 用語を板書する。	
3 展開(2) ○南アメリカ州に住む人々の生活の特色を考える。	自然環境や気候の特色から、南アメリカ州の人々がどのような生活をしているか考えるために、 言・体 考える観点を一つずつ示した上で、ワークシートに自分の考えを書くよう指示する。	象 南アメリカ州に関する写真資料を用意し、写真から読み取ったことから、人々の生活について考えさせる。
4 まとめ ○南アメリカ州の自然環境や人々の生活の特色について説明する。	生徒が自然環境や気候の特色から考えた南アメリカ州の人々の生活について説明できるようにするために、 聴・体 ワークシートに書いたことを、グループで説明し合うよう指示する。 象 本時で学んだことを、ワークシートにある白地図を提示しながら言葉で説明する。	

小学校 外国語活動 パフォーマンス検査 実施方法

1 パフォーマンス検査の実施の意図と目的

外国語活動の学習指導の内容は「主としてコミュニケーションに関する事項」と「主として言語と文化に関する事項」とされており、目標においてもコミュニケーション能力そのものだけを育成の目標とはしていない。

本研究で「児童・生徒に身に付けさせたい力」とは、「基礎的な知識及び技能」、「基礎力」、「基礎・基本」といったキーワードで示される力であることから、外国語活動で育成される能力において本研究で開発した指導方法は、主として「外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しみ」について効果が発揮されると考えられる。よって、「外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しみ」についての効果を検証するため、独自の検査方法（パフォーマンス検査）を作成、実施する。

また、外国語活動の目標に示されている「外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しみ」については、その文言通り慣れ親しむことが目標であり、定着を図ることを目標としていない。したがって、事前調査では、本研究の検証授業実施前の単元である「道案内をしよう」の使用表現を主な対象にして検査を実施する。同じく事後調査では、検証授業の単元である「行きたいところを紹介しよう」の使用表現を主な対象とする。

2 検査の概要

(1) 実施対象

外国語活動の検証授業実施校の第6学年児童 約80名

(2) 実施時期

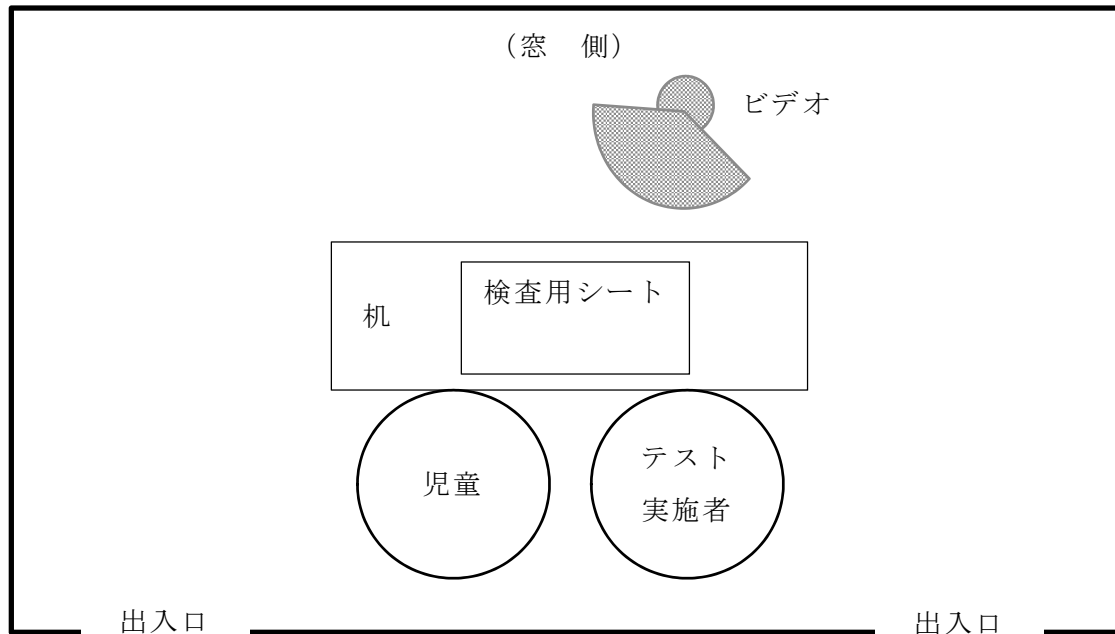
- ① 事前検査 平成28年10月上旬
- ② 事後検査 平成28年11月上旬

(3) 実施時間 児童一人につき3～5分間

(4) 実施形態

検査実施者と児童との一連の会話をビデオに記録し、検査実施後、ビデオを複数の検査実施者で視聴し、観点に基づき評点を決定する。

(5) 配置



(6) 実施内容事前説明

実施前に対象学級全体への指導として以下のことを指導する。

- 簡単な英語で会話を行うこと
- 成績に関わるテストではないので、普段の外国語活動と同じようにしてよいこと
- 一人一人別の部屋に入って、3～5分程度のテストを受けること
- テストが終了したあと、全員が終わるまでは内容を話さないこと

3 事前検査の内容

(1) 事前検査実施スクリプト

① 【雰囲気づくり】＜20 秒＞

T : Hello. My name is ～.

What's your name?

C : (A)

T : ○○○○, nice to meet you.

(握手を求める。)

C : (B)

T : So, how are you, ○○○○?

C : (C)

T : (反応に応じた会話をする。)

②【説明】＜30 秒＞

T : O. K.

Here is a map. This is （実施した学校がある町の名前）-town map.

Do you like （実施した学校がある町の名前）-town?

C : (D)

T : Good!

Now, we are here, （実施した学校の名前） elementary school.

（地図上のスタート地点を指し示す。）

I'll give you two questions.

③【第1 質問】＜1 分＞

T : First question.

Where is the station?

C : (E)

T : Thank you.

④【第2 質問】＜1 分＞

T : Second question.

Where is （実施した学校の学区にある中学校の名前） junior high school?

C : (F)

T : Thank you.

⑤【まとめ】＜10 秒＞

T : The test is finished.

You can go back to your class room.

Thank you.

See you later.

(2) 採点基準

(A) 名前を伝えられる。

T : Hello. My name is ～.

What's your name?

C : (A)

1 点… My name is ○○○○. /I'm ○○○○. /○○○○ (名前のみ)

0 点… (何も発話しなかった)

(B) 初めての会う人と挨拶ができる。

T : ○○○○, nice to meet you.

(握手を求める。)

C : (B)

1点… Nice to meet you(, too).

0点… 握手だけをしている。

(C) 普段の挨拶ができる。

T : So, how are you, ○○○○?

C : (C)

1点… I'm (). (目を見てはっきりと言っている。)

0点… (何も発話しなかった)

(D) 自分の思いをどうにかして伝えられる。

T : Do you know (実施した学校がある町の名前) -town?

C : (D)

1点… Yes, I do. / Yes. / 等 (どうにかして伝えようとしている。)

0点… (何も発話しなかった)

(E)・(F) 英語表現を用いて道案内をすることができる。

下記のそれぞれの項目ができていればそれぞれ1点

○ 「station」の意味を理解している。

○ 「go straight」の表現を使用して道案内をすることができる。

○ 「turn right(left)」の表現を使用して道案内をすることができる。

○ 「station」の場所に到達したとき、何らかの表現で到着したことを伝えることができる。

○ 上記以外の表現に加えて、何らかの英語表現を用いて、適切に道案内をすることができる。

4 事後検査の内容

(1) 事後検査実施スクリプト

①【雰囲気づくり】＜20 秒＞

T : Hello. My name is ～.

What's your name?

C : (A)

T : ○○○○, nice to meet you.

(握手を求める。)

C : (B)

T : So, how are you, ○○○○?

C : (C)

T : (反応に応じた会話をする。)

②【説明】＜30 秒＞

T : O.K.

Here is a pamphlet. This is Nikko-town pamphlet.

Did you enjoy Nikko-ido-kyousitsu ?

C : (D)

T : Good!

I want to go to Nikko ,too.

I'll give you two questions.

③【第1 質問】＜1 分＞

T : First question.

If you can go to Nikko again, where do you want to go ?

C : (E)

T : 【(E) で行った場所を大きく言う】

T : Why? (Why do you want to go to (E) again ?)

C : (F)

T : Thank you.

④【第2質問】＜1分＞

T : Now, second question.

So, you want to go to 【(E) で行った場所を言う】 ,
and where do you want to go ?

(Give me one more place.)

(E) and . . . ?

C : (G)

T : 【(G) で行った場所を大きく言う】

T : Why? (Why do you want to go to (G) again ?)

C : (H)

T : Thank you.

⑤【まとめ】＜10秒＞

T : The test is finished.

You can go back to your class room.

Thank you.

See you later.

(2) 採点基準

(A) 名前を伝えられる。

T : Hello. My name is ~.

What's your name?

C : (A)

1点… My name is ○○○○. /I'm ○○○○. /○○○○ (名前のみ)

0点… (何も発話しなかった)

(B) 初めての会う人と挨拶ができる。

T : ○○○○, nice to meet you.

(握手を求める。)

C : (B)

1点… Nice to meet you(, too).

0点… 握手だけをしている。

(C) 普段の挨拶ができる。

T : So, how are you, ○○○○ ?

C : (C)

1点… I'm (). (目を見てはっきりと言っている。)

0点… (何も発話しなかった)

(D) 自分の思いをどうにかして伝えられる。

T : Did you enjoy Nikko-ido-kyousitsu ?

C : (D)

1点… Yes, I do. / Yes. / 等 (どうにかして伝えようとしている。)

0点… (何も発話しなかった)

(E)・(F) 英語表現を用いて自分の行きたい場所を伝えることができる。

下記のそれぞれの項目ができていればそれぞれ1点

- 「where do you want to go ?」の意味を理解している。
- 自分の行きたい場所を伝えられる。
- 「I want to go ～.）」の表現を使用して行きたい場所を言っている。
- 「because」の意味を理解している。
- 行きたい理由を英語で伝えられる。
- 行きたい理由を複数、英語で伝えられる。
- 上記以外の表現に加えて、別の英語表現を用いて適切に自分の行きたい場所を伝えることができる。